

令和5年度 学校自己評価

令和6年3月29日

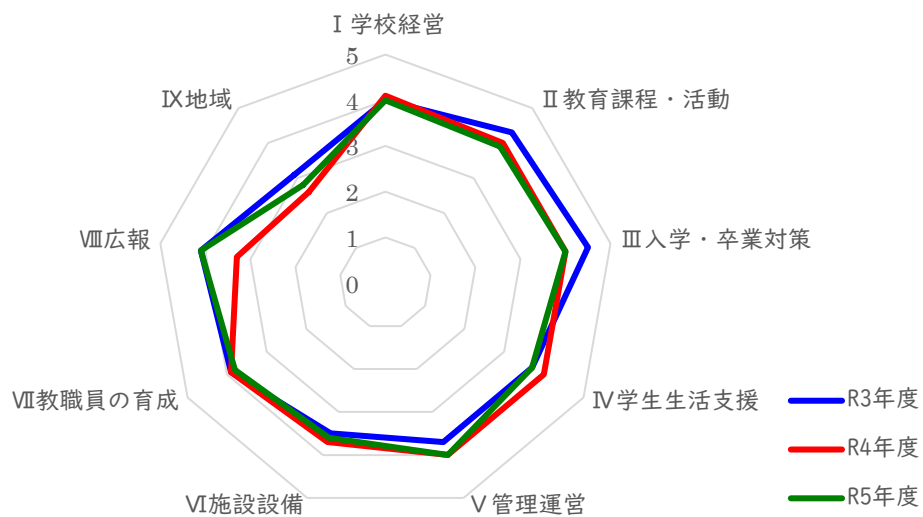
学校運営評価点

項目	令和5年度	令和4年度	令和3年度
I 学校経営	4.0(-0.1)	4.1(+0.1)	4.0(-0.3)
II 教育課程・活動	3.9(-0.1)	4.0(-0.3)	4.3(+0.5)
III 入学・卒業対策	4.0(±0)	4.0(-0.3)	4.3(-0.2)
IV 学生生活支援	3.7(-0.3)	4.0(+0.3)	3.7(-0.3)
V 管理運営・財政	4.0(±0)	4.0(+0.3)	3.7(-0.1)
VI 施設設備	3.6(-0.1)	3.7(+0.2)	3.5(±0)
VII 教職員の育成	3.8(-0.1)	3.9(±0)	3.9(+0.5)
VIII 広報	4.1(+0.8)	3.3(-0.8)	4.1(+0.1)
IX 地域・国際交流	2.8(+0.2)	2.6(-0.5)	3.1(+0.5)

総評

- ・4項目が3.0以上4.0未満の評価であった。
- ・4項目が4.0以上の評価であった。
- ・2項目の評価が上昇していた。(0.2~0.8)
- ・5項目の評価が低下していた。(0.1)

学校自己評価結果



令和 5 年度 学校運営の自己評価

評価項目	評価の根拠
<p>Ⅰ</p> <p>学校経営</p>	<p>教育理念・目的・目標については、母体病院の理念を反映させた内容をあげている。卒業生像については明文化されているが、卒業後の状況把握について課題が残っている。</p> <p>学生のアンケート結果より①教育理念・目的については全体の 69.8%、②教育目標・卒業生像については、67.7%の学生が、「とても知っている」「知っている」と回答している。昨年度、学生に十分周知されていなかったこともあり、教員が意識しながら関わった結果であると思われる。</p> <p>会議については、運営会議をはじめ教育会議、業務会議等を定期的に行い、学校運営についての検討を行った。</p> <p>学校運営に関する学生からの意見や要望は、年度末に各学年にアンケート形式で実施し、次年度の学校運営に反映させるよう努めている。また学内と学生寮には意見箱を設置し、学生が生活しやすいよう意見・要望を募っている。意見・要望に関しては、教職員で検討し学生に検討内容を伝えるよう取り組んでいる。</p>
<p>Ⅱ</p> <p>教育課程・教育活動</p>	<p>教育課程の編成は、関係法令にそって、設置主体、病院附属の学校としての特色を踏まえ編成している。学生のアンケート結果からは「学びやすかった」「解剖をしっかり学べた」などの意見があった。一方で、認定試験が重なったり、課題が多かったりすることに負担であったという意見もあった。次年度は認定試験の組み方を考え、学生の負担が少しでも軽減できるよう取り組みたい。</p> <p>今年度は、各実習のルーブリックを作成し、評価や学生の学習指標にできるように教育会議で検討を重ねた。今後は、作成したルーブリックを活用し評価しながら見直しをしていく。</p> <p>教育の質を維持・向上するために、授業終了時には学生より授業評価を受けているが、今年度も概ね実施し回答を得た。また、授業研究を実施し、教育内容や教授方法、教材についてディスカッションする場を設けることができた。</p> <p>実習では、教員と実習指導者が連携をとりながら指導に当たり、1 回/月の指導者会議で学生指導について検討する機会を設け、学校と病院で学生の学習状況を共有しながら臨地実習での学習をサポートする体制を整えている。しかし、援助の調整などが難しいという学生からの意見があったため、次年度は朝の調整を教員指導者とできる体制を整える。</p> <p>インシデントが生じたときは、教員が学生と共に振り返り、状況を分析し再発防止に努め、必要時は、学生間で共有し、自分自身のこととして考える機会を設けている。</p> <p>教育課程については、入学時にガイダンスを行い学習内容の全体が把握できるように、年間計画を配布した。授業科目のシラバスは、授業開始時に学生に提示し担当者が内容の説明を行うようにしているが、科目によっては配布が遅れることがあるため、次年度は始業までに配布するよう努力する。</p>
<p>Ⅲ</p> <p>入学・卒業対策</p>	<p>今年度も、学生個々の学習状況を見ながら、それぞれに合わせて学習サポートを行った。学生のアンケート結果から、1・2 年生から国家試験に対する対策を立て取り組みたいという意思がうかがえた。模擬試験や国試対策ゼミを各学年に取り入れているが、引き続き実施し、国家試験を目指して頑張ろうという学生の気持ちを大切に関わっていききたい。</p> <p>就職率は 100%であるが、今後も母体病院や地域に貢献できる人材の育成に尽力していく。</p> <p>母体病院に就職した卒業生については、協力を得ながら状況把握に努めているが、近年は母体病院以外に約 3～4 割の卒業生が就職するため、その後の状況把握をしてカリキュラム評価につなげられるよう努力する必要がある。</p>

評価項目	評価の根拠
N 学生生活への支援	<p>今年度より、学年担当教員を 2 名配置し、教員によるチューター制を導入した。この制度の導入し、学生の学習や生活のサポート体制を強化した。これに対して学生のアンケート結果からは、「学習のサポートが受けやすかった」「相談しやすい環境になった」「先生との距離が近くなった」などの意見があったが、一部では制度の導入の目的が共有できていない学生もいた。チューター制については、今年度からの取り組みであり、教員にも戸惑いがあったことから、自己評価が-0.3P 低下したと思われる。次年度は、チューター制度の目的を学生と教員が共有し、学生にとってよりよいサポート体制が強化できるよう努める。</p> <p>健康管理については、校医を中心に健康診断を 1 回/年の実施をした。医療機関への受診が必要な学生に関しては、母体病院と連携を取りフォローできる体制をとっている。昨年度より、母体病院の臨床心理士によるカウンセリングが受けられるよう整え、メンタル面のサポートが強化できる体制をとっている。学生の希望時や教員が必要と判断したときは、カウンセリングが受けられるようにしたことで、メンタルコントロールをしながら学校生活を送ることができた。</p> <p>経済的支援については、母体病院独自の奨学金制度があり、学習に励むモチベーションにつながっている。日本学生支援機構の奨学金については、説明会を行い手続き時にサポートが必要な学生に対しては教務事務が対応する体制を整えている。また、本校は「高等教育の就学支援制度」の認定校となっており、支援が必要な学生の学費軽減につながっている。引き続き、学生個々の経済状況に応じたサポートができるよう努める。</p> <p>学生のクラブ活動は、バレーと茶道部であるが、病院のクラブ活動にも参加できる。例年であれば、募金活動やグループホームへのボランティア活動を学生自治会が中心となり運営しているが、今年度は、クラブ活動も含め新型コロナウイルス感染症により活動できていない。</p>
< 管理経営・財政	<p>本校は病院附属の学校であり、病院経営を基盤に運営している。予算計画は、前年度の評価から策定し運営会議で検討している。教員から看護教育に必要な教材や設備について意見を求め、予算確保ができるよう努めている。事務員は学生からの授業料等の納入状況の確認を行い管理している。</p> <p>個人情報ガイドラインは明文化し提示している。また個人情報は全て鍵のかかる場所に保管・管理している。</p> <p>昨年度に災害対策マニュアルとして「いのちを守る防災マニュアル」を作成し学生に配布した。入学時に保護者に災害時の対策について説明し、協力が得られるよう努めている。また、3学年分の備蓄食を学校でまとめて管理し非常時に備えている。</p> <p>防災訓練は、学生寮も含め引き続き定期的に行う。また、昼間は母体病院の安全管理担当者、夜間は防災センター警備員が学内の見回りを毎日行い不審者の侵入防止や防犯に関する管理を行っている。</p>
≦ 施設設備	<p>校舎は築 35 年以上になるが、耐震基準は満たしており法令に基づき設備点検を定期的に行っている。</p> <p>今年度は、学生用のノートパソコン 10 台を新調し学習に使用できるよう整えた。</p> <p>以前より学生から女子更衣室が狭く、不便であるという意見がある。建物の構造やスペースの問題で改善できておらず、学生に協力を得ながら使用してもらっている状況がある。改善策がないか、引き続き検討していく。</p>

評価項目		評価の根拠
Ⅴ	教職員の育成	<p>教員は、県が主催する専任教員継続研修に、それぞれのキャリアに応じて参加したり、各自が必要に応じて研修会や学会に参加し、個々の成長につながるよう努めた。また、母体病院での研修会に参加したり、eラーニングを活用した学習に各自が取り組んだ。学内では授業研究を行い、授業後はディスカッションする場を設け、担当科目の位置づけや科目とのつながりを考えたり、教材や方法の工夫につなげることができた。</p> <p>今年度は、次年度取り入れるラベルワーク学習の研修を計画し全教員が参加した。今後は、学生と共に教員も学びながら、ラベルワーク学習に取り組んでいく。</p>
Ⅵ	広報	<p>受験者確保の取り組みとして、できる限り高等学校へ訪問したり学校説明会に参加し本校のPRができる場を設けた。また、少人数による看護学生体験を昨年度より1ヶ月早く取り組み、1日看護学生では、在学生にも参加してもらい本校も学校の雰囲気や伝わりやすい環境を整えたり、看護技術の体験ができるようにした。また、ホームページの更新は広報係りの学生と共に取り組むなど、学校のPRに力を入れて取り組んだこともあり、自己評価が高い。またその結果として受験生が昨年度より0.9%増、受験生に対しての入学生数は10%増となった。これらの結果から、今年度の自己評価は+0.8P上がったと考える。今後も学生確保にむけて本校で学ぶことの魅力を伝えられるよう今後も広報活動に力を入れて取り組む。</p>
Ⅶ	地域貢献	<p>今年度は、規模を縮小して学生自治会主催の学生祭を開催した。しかし、ボランティア活動などの再開はできておらず、地域貢献をする場がほとんどなかったことから、自己評価が低い。引き続き地域のニーズを把握しながら、地域に貢献できる取り組みを学生自治会が主体となり取り組めるようサポートしていく。</p>